



整形外科 紹介

今年初めに京都からすま病院 整形外科・リハビリテーション科に着任いたしました。当院の特徴は急性期と回復期リハビリテーション病棟を擁している点です。例えば、転倒し大腿骨を骨折した方が手術を受け、その後回復期病棟に移り、引き続き充分なリハビリテーションを受け自宅退院する。途中転院などせずに一貫して治療を行えます。これは非常に大きなメリットです。

一方、外来で一番多い手術は「ばね指」の手術です。ばね指にも段階がありますが、指を握ると自分の力では伸ばせず、もう一方の手でその指を起こす。その際痛い。この程度になると手術(腱鞘切開術)をお勧めします。局所麻酔の外来手術です。当院では手術室で感染に留意し施行しています。

また、手指のしびれ(特に親指～中指)で多い疾患は「手根管症候群」です。正中神経が手首のところで圧迫される病気です。朝方、手のしびれや痛みで目が覚めることもあります。ひどい場合は手術で神経の通り道を拡げ圧迫を開放します。当科では局所麻酔で鏡視下手根管開放術(手のひらに1cm以下の切開が2つ)を行います。俗に言う「カメラを使った手術」です。入院の必要はありません。

もう一つ、外来の特徴は外来リハビリテーションを行っていることです。運動器疾患に精通した理学療法士・作業療法士を配して行っており大変好評を得ています。現行では常勤医1名ですが、京大整形外科医局より非常勤医数名を配していただき、月曜日から土曜日まで毎日午前中の外来を行っています。ご紹介等、気軽にご相談いただけると幸いです。



整形外科部長
西村 隆一 医師

【専門医・その他】

- ・日本整形外科学会 専門医
- ・日本リハビリテーション医学会 認定臨床医
- ・日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- ・日本リウマチ学会専門医
- ・日本リウマチ学会登録ソノグラファー
- ・日本整形外科学会認定リウマチ医
- ・日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- ・日本整形外科学会認定スポーツ医



→裏面へ続く

～ばね指の手術を受けた患者さんの声～

突然、朝、目が覚めると、右手の親指がカクンと関節が引っかかるようになりました。「しばらくしたら治るだろう」と思っていたが、だんだん痛みも強くなり、1か月後には左手の親指まで痛みました。そのため、ボールペンを持ったり、洗濯バサミで挟んだり、ペットボトルの蓋を開けることができなくなりました。

整形外科の西村先生に診ていただくと「ばね指」と診断されました。「ずっと我慢していたのですね」と優しく声をかけていただき、初めての手術で怖かったのですが、手術を受けることにしました。手術後からは関節の引っかかりや痛みがなくなり、今は問題なく過ごせています。西村先生、本当にありがとうございました。

50代女性



「歩いて来た患者さんを歩いて帰そうプロジェクト」のご紹介

リハビリテーション科では、医師の判断に基づき、急性期・回復期・維持期（生活期）とそれぞれの状況で患者さんに最適なリハビリテーション・プログラムを策定してリハビリを提供しています。

しかし、高齢の患者さんは、入院中安静にしているだけでは、すぐに寝たきりになってしまいます。

そこで入院する前と同じように退院後も生活できるように診療科の枠を超え、患者さんとそのご家族を中心に据え、医師・リハビリスタッフ・看護師・看護補助者・管理栄養士・相談員（MSW）等、多職種が連携して、一日も早く笑顔で退院していただくことを目的に、今年度より「歩いて来た患者さんを歩いて帰そうプロジェクト」を始めました。

コロナ禍でスムーズにいかない場合もありますが、患者さんお一人おひとりの個性を尊重し、病院理念「思いやりのある医療を実現します。」に取り組んでいます。

